

被災者を支援するため盛岡市に向けて出発する  
岡山大病院の医師ら

## AMDAや 岡山大など 医師ら順次派遣

被災直後から現地入  
りした国際医療ボラン  
ティア・AMD Aは16  
日までに菅波茂代表ら  
医師や看護師など延べ  
21人を仙台市などに順  
次派遣。現在、7人が  
仙台市と岩手県釜石市  
の避難所を巡り、被災  
者の診療などに奮闘し  
ている。日本赤十字社  
県支部は福島、岩手県

に医師、看護師ら15人  
を派遣。岩手県の避難  
所で救護活動を行って  
いる。

千葉喬三学長をトッ  
プに災害支援対策本  
部を設置していた岡  
山大は岩手県の要請  
で医療班の派遣を決  
め16日、2人が岩手  
医科大付属病院(盛岡  
市)へ救急車で出発し

第1班は岡山大病院  
の救急医と看護師で

「時間経過で変化する  
ニーズを把握し、継続  
的な支援を」(氏家良  
人・岡山大病院救急科  
教授)とし、22日まで  
に3班計7人を派遣す  
る。NPO法人・岡山  
医師研修支援機構も岡  
山大に協力、現地へ赴

く医師を募集してい  
る。

被災者の心のケアも  
開始された。県は16日、  
県精神科医療センタ  
ー(岡山市北区鹿田本  
町)の医師、精神保健  
福祉士、看護師ら8  
人で編成するチーム  
を宮城県登米市へ派  
遣。期間は1週間程度  
で、交代しながら避難

住民の診療や相談など  
に24時間態勢で当た  
る。

来任由樹・同センタ  
ー医療部長は「派遣地  
域には1万人以上が避  
難し、小中学生が15  
0人いると聞く。親や  
愛する人と生き別れ、  
孤独に違いない。人々  
の心を受け止めたい」  
と決意を述べた。

支援の輪は、まだま  
だ拡大しそうだ。岡山  
市は21日から保健師を  
仙台市へ。4月末まで、  
1週間交代で2人程度  
が避難所に詰め、計16  
人が健康相談に乗る。  
県医師会も現地から帰  
岡した井戸俊夫会長の  
指示で第2陣を計画。  
県看護協会も研修を受  
けた「災害支援ナース」  
を中心にチームを編成  
中で、榎原美恵子常務  
理事は「被災者はもち  
ろん、被災しながらも  
頑張る現地の看護師を  
サポートしたい」とい  
う。

県薬剤師会も派遣要  
請に即座に対応できる  
ようにボランティア希  
望者を確認中。遺体の  
身元確認を行うため、  
日本歯科医師会から派  
遣要請があった県歯科  
医師会も協力者を募っ  
ている。

岡山県は、被災直後から現地入りした国際医療ボランティア・AMD Aは16日までに菅波茂代表ら医師や看護師など延べ21人を仙台市などに順次派遣。現在、7人が仙台市と岩手県釜石市の避難所を巡り、被災者の診療などに奮闘している。日本赤十字社県支部は福島、岩手県

に医師、看護師ら15人を派遣。岩手県の避難所で救護活動を行っている。千葉喬三学長をトップに災害支援対策本部を設置していた岡山大は岩手県の要請で医療班の派遣を決め16日、2人が岩手医科大付属病院(盛岡市)へ救急車で出発し

岡山県は、被災直後から現地入りした国際医療ボランティア・AMD Aは16日までに菅波茂代表ら医師や看護師など延べ21人を仙台市などに順次派遣。現在、7人が仙台市と岩手県釜石市の避難所を巡り、被災者の診療などに奮闘している。日本赤十字社県支部は福島、岩手県

# 救援・治療へ奔走

岡山県は、被災直後から現地入りした国際医療ボランティア・AMD Aは16日までに菅波茂代表ら医師や看護師など延べ21人を仙台市などに順次派遣。現在、7人が仙台市と岩手県釜石市の避難所を巡り、被災者の診療などに奮闘している。日本赤十字社県支部は福島、岩手県